

平成29年度

学校自己評価表（報告）

学校運営計画				
学校運営方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らの長所を伸ばし、他者を尊重し多様な人達と協働しながら社会の変化を乗り越え、豊かな社会を作るリーダーとなる人材の育成に努める。</li> <li>存在感のある学校として生徒、保護者、地域の期待に応える学校づくりを進める。</li> <li>生徒、教職員ともに心身の健康と資質の向上に努める。</li> </ul>			
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標		
(成果) ・地域の進学を担う高校としての役割を果たすため、生徒の進路実現に向けた取り組みを計画通り行った。その結果、国公立大学合格者数は57名となり、目標には届かなかったものの生徒に寄り添った指導が最後まで出来た。また、センター試験出願者が200名を超え、丁寧な指導をしてきていると答える生徒の割合が3年生で85%となった。 ・規律ある学校生活を生徒に送らせるため、登校指導や制服の着こなし指導等を定期的実施して、規範意識の醸成に努めた。 (課題) ・授業を充実させ、さらなる学力向上、進路指導の充実を努める。 ・生徒指導については、全職員が共通した指導を行う。精神的に不安定な生徒には、組織的な対応と家庭との連携を深める。また、部活動等の学校生活の充実を図る。	学力の向上	①授業を大切にできる精神を養い、基礎学力の徹底した定着を図りながら、教科の高度化、応用に対応できる力を身に付けさせる。 ②朝学習の実施により学習に集中できる雰囲気を醸成する。 ③家庭学習の充実、徹底を図る。		
	進路目標の明確化	①3年間を見通した進路指導体制を充実し、学校全体できめ細かい指導、支援を組織的に行う。 ②国公立大学、難関大学への指導研究をさらに推進し、志願率、達成率をあげて、進路実現を支援していく（国公立合格者70人を目指す）。 ③1学年早期の進路指導またキャリア教育を推進し、自らの進路を主体的に選択できる能力を育成する。		
	生徒指導の推進	①スカート丈などの身だしなみをきちんとする。 ②安全教育を徹底する。 ③生徒会活動、部活動を充実させ、自己実現と連帯感を養う。 ④いじめ等の未然防止、早期対応、解決に努める。		
	心身の健全発達	①健康管理に努め、心と体のバランスのとれた生徒を育成する。 ②他を思いやり、自らを律することができる強い心を養う。 ③学校環境の整備と美化に努め、奉仕の精神、愛校心を養う。		
重点目標	具体的目標	具体的方策		評価
生徒指導の推進	指導「重点項目」の掲示	①生徒指導部において次月の指導「重点項目」を検討し、決定する。 ②毎月初めに教務室・各HRに掲示し、全職員の協力を得てその指導にあたる。		B
	身だしなみの指導の継続	①服装・頭髪検査を各学期1回と1学期体育祭後1回の計4回行い、身だしなみへの意識を高める。 ②衣替えの時期に登校指導を実施し、制服の正しい着こなしを促す。		A
	登校指導の充実	①風紀委員および職員による登校指導（1ヶ月程度）を、1・2学期の衣替えの時期に合わせてそれぞれ1回ずつ実施する。 ②挨拶運動と身だしなみ指導を並行して行う。		A
	不審者対策の徹底	①全校集会等で不審者に対する注意を喚起し、被害を未然に防ぐための心構えや遭遇したときの対処法を指導する。 ②不審者について、最新の情報を提供する。		A
	所持品の自己管理の徹底	①個人ロッカーを正しい利用することにより、所持品（特に財布や携帯電話などの貴重品）の自己管理を徹底させる。 ②教室および廊下の整理整頓を徹底する。（ロッカー上に私物を置かせない。）		B
	交通事故の未然防止	①集会やHRにおいて、具体的なケースを示して交通事故の未然防止を呼びかける。 ②街頭指導を通して、ルールの遵守およびマナーの向上を図る。		B
進路目標の明確化	(進学指導) 各学年と協力して生徒の進路実現を目指す	①進路情報を収集・分析し、大学入試改革や大学入試の動向を各学年に提示する。 ②進路希望調査に基づいて、上級学校に関する情報を提供する。 ③職業体験の案内を生徒に提示し、参加を促すことで職業に対する理解を深める。 ④高大連携の推進を図り、大学講義体験を通して、志望分野に対する興味・関心を深める。 ⑤卒業生の話を聞く機会を設け、大学の学びに対する理解を深める。		B
	(就職指導) 就職希望者の適性を生かした進路実現をはかる	①就職ガイダンスを実施し、社会人・職業人としての意識を高める。 ②就職希望者と面談を行い、本人の希望や適性を把握することで、求人票と本人の希望のミスマッチが起きないように指導する。 ③面接指導や作文指導を充実させる。外部講師による講習会を実施する。 ④公務員希望者については各種公務員模試を2年生の秋から実施する。 ⑤採用試験に向けて、具体的な指導に取り組む。		A
	(1学年) 自己の適性を見極め、より高い教養を身につけ、将来に向けた進路と職業を考えさせる	①HR、総合学習、進路講演会等の時間を利用して、進路意識や職業観を高める。 ②進路適性検査や個人面談等を実施して、自己理解や適性を見極める。 ③システム手帳で日々の管理をさせ、将来の社会人としての素質を身につけさせる。		B
	(2学年) 将来を見通した上で年間進路計画を立て、進路目標の実現に導くための進路指導を的確に行う	①学期1～2回程度の個人面談を行い、生徒個々の進路意識や学習状況の把握に努める。 ②学期1～2回程度、外部講師等による講演などを実施し、知識の広がりや進路意識を喚起させる機会をつくる。 ③大学等の進路研究や修学旅行での大学訪問を通じて、生徒個々が具体的な進路像を自覚して描けるように指導する。		A
	(3学年) 個々の進路達成に向けた取り組みを支援する	①個別面談、進路ガイダンス等きめ細かい指導をより充実し、各自の進路希望を具体化させる。 ②学年集会を積極的に開催し、学習意欲を高める。 ③入試傾向についての的確な情報の提供を行う。 ④各教科の学力補強のほかに、小論文や面接、口述試問対策などを充実させる。		A
学力の向上	(進路指導) 学年、教科と連携を密にし、生徒へ効果的な学習支援ができる体制を整える	①各学年で毎回模擬試験の分析を行い、各教科偏りのない学力強化を図る。 ②小論文指導・面接指導に役立つ資料・情報を職員や生徒へ提供する。 ③長期休暇中の補習や学習合宿などを企画・立案し、実施する。 ④特別講座を計画・実施し弱点の強化や応用力の育成を目指す。		A

		⑤生活実態調査を全クラスで行い、生徒の学習習慣の確立を目指す。		
	(教務部) 学力の向上と進路希望の達成に向けた学習環境整備に取り組む	①曜日のバランスを考慮しながら授業時数を確保し、生徒の学習効果を高めるための校時や時間割編成、授業実施計画の作成を行う。 ②基礎学力の定着を図るため、学力不振者への補習計画を作成するなど、学習効果を高めるための方策を講じる。 ③特別教室の環境を整え、利用状況を把握し易くし、通常の授業や放課後の補習やや生徒の自習等、様々な利用に支障がないようにする。	A	
	(1学年) 家庭学習の習慣を確立させ、自主的・計画的に取り組む意欲や態度を育てる	①宿泊オリエンテーション(学習方法や学習時間の指導確立)や土曜補習や通常補習(目的意識と動機付けの確立)を実施する。 ②システム手帳を利用した学習時間の計画・管理を指導する。 ③教科間(横)の連携をはかり、課題量の調整や指導方法・内容を把握する。	B	
	(2学年) 授業を中心とした学習計画をもとに学力の養成に努める	①授業以外でも朝学習や学習課題、補習等を通じて、自学・自習ができる学習習慣を身につけさせる。 ②外部模試成績の検討会を実施して教員間の共通認識を深め、学習指導に反映させる。 ③平生の学習計画をたてて記録させ、部活動などを含む生活リズムの見直しと学習時間の確保・充実をはかる。	B	
	(3学年) 基礎学力強化と応用力養成に努める	①各自の到達目標を明確にさせ、進路目標達成に結びつける。 ②授業、補習、学習合宿等で苦手科目の克服、基礎力強化、応用力の育成を図る。 ③模試分析をしっかりとやり、現状の生徒にあった指導を的確に行う。	A	B
	(生活文化科) 各コースの専門的な知識と技術の習得をはかり、職業観の育成や進路実現に向けて自ら学ぶ意欲と態度を育てる	①家庭科技術検定をはじめとする各種検定の合格を目指し、専門性の高い授業実践に力を入れる。 ②卒業生や外部講師による講話や体験授業を取り入れ、具体的な進路探究や職業観を養い、進路実現に役立てる。 ③実験・実習の授業を通し、コミュニケーション能力を養う。	B	
	(図書指導) 図書館利用の促進および読書により自ら学ぶ力のある生徒を育てる	①新入生へのオリエンテーションを行い、読書に親しみを持たせ、図書館利用促進へ結びつける。 ②各教科、分掌、部活動、生徒の購入希望図書を掌握し、適切な選書を行う。 ③図書委員会の有効活用につとめる。 ④ 図書館報を充実させ、生徒の読書意欲を喚起し、一人あたりの年間図書貸し出し数3冊以上を目指す。	B	
	(視聴覚指導) 視聴覚機材管理の効率化と各機材の校内における利用を促進する	① 教科指導、講習会、学校行事等に必要とされる機材の整備、管理、提供を円滑に行う。 ② 視聴覚機材を利用した学習活動を支援することで、学校行事の活性化を図る。	B	
特別活動	(教務部) 学校行事を通して、学校生活に対する生徒の意欲を高める	①生徒が主体的に参加できる学校行事を計画し、その内容を充実させるために、関係の係りの連絡を密にする。 ②各学校行事が、その目的を達することができるように、バランスのとれた年間行事計画を作成する。	A	
	(生徒会指導) ①生徒会行事の円滑な運営 ②生徒会予算、クラブについての見直し	①各種生徒会行事を計画的に企画を立て、運営を行う。各担当者は生徒会総務と連携し行う。 ②生徒会予算の内容、クラブの統廃合に関しての検討を行っていく。 ③部活動離れの原因追及・加入率の向上を目指す。	A	A
	(同和教育推進委員会) ①学校全体に人権・同和教育の方向性を示す。 ②人権・同和教育実践を継続する。	① 総合的な学習の時間を利用し、『生きるV』を活用しながら同和教育を実践し、差別を見抜き、許さない心を育てる。 ② 校外職員研修等を通して、人権・同和教育の質の向上を目指す。 ③ 同和教育ニュース『かがやく』を発行し、生徒対象の同和教育の様子を保護者に向けて発信したり、定期的に校外研修の様子などを教職員へ報告する。	A	
心身の健全発達	(保健・体育指導) ①心と体のバランスの取れた生徒を育成するため、保健管理、保健指導を組織的に推進する。 ②健康・安全や運動について理解させ、生涯にわたって積極的に運動に親しむ資質を育て、強健な身体を育成する。	①健康診断を確実に実施し、生徒の健康課題を明らかにし、全職員で共有する。 ②生徒の健康課題解決のため関連教科や外部機関と連携し、保健指導や健康相談を実施する。 ③学習に適した環境を整え、生徒の美化意識を高める。 ①保健・体育活動を通して自他を敬愛できる生徒を育てる。 ②体力テストの結果から個々の体力を確認し、領域における各種目やマラソン大会、さらには年間を通した体育授業時の補強運動を実施することで体力の向上を図る。 ③スキー授業や選択制体育・体づくり運動の実践から、生涯にわたって計画的に運動に親しみ、スポーツを通してコミュニケーションを深める資質を育成する。	A	A A
PTA活動	(渉外部) 社会人への準備期間として、ふさわしい人格形成に向けたPとTの協力体制を作る	①開かれた学校作りの推進のため、校内各分掌・各学年と生徒・保護者・地域の有機的な連携が図れるよう調整にあたる。 ②PTA総会、進路講演会、大学訪問等行事への積極的参加を促し、教育活動や生徒の進路への理解を深めてもらう。 ③進路委員会・広報委員会・教養委員会の活動が有意義なものになるようサポートする。	A	A
成果と課題	(成果) ・国公立大学進学希望者の指導を3月の後期試験まで組織的に行い、後期試験で10名の合格者を出した。国公立大学合格者数は延べ56名となり、目標には届かなかったものの生徒に寄り添った指導が最後まで出来た。「学校は、進路実現に向けた取組を十分しているか」の間に肯定的な評価をした生徒が、3年生で95.6%になった。 ・職員が朝の玄関で生徒(風紀委員)とともに挨拶運動を定期的実施して、規律ある学校生活を遅らせるようにした。「学校は、基本的な生活習慣を身につけさせる指導を行っているか」の間に肯定的な評価した生徒が、全校で90%を超えた。 (課題) ・個々の教職員が「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けて授業改善に努め、生徒のやる気を引き出す指導に努める。 ・精神面で悩みを抱える生徒に対して、学校として組織的に対応して、家庭との連携を深める。 ・生徒の部活動への加入を奨励し、学習面との両立を図りながら、学校生活の充実をさせる。			総合評価  A